



## 富樫 佑太選手・三ツ田 啓希選手・吉濱 遼平選手の紹介



写真: ©Kaz Photography/FC Gifu

背番号 16 富樫 佑太 選手  
FW 25歳

東京都江戸川区で両親と弟の4人家族で育った。幼少よりサッカーに親しみ、国学院久我山高校を卒業後、一人スペインのプロ3部リーグの“ウラカン・バレンシアCF”でプレーした。体がぶつかり合う激しいプレーが多いのは、職を失わないための必死度の違いを感じ、勉強になった。スペインでは言葉で苦労したが、1年間頑張ったお陰でスペイン語の日常会話には困らない程度になったし、一緒にプレーしていたチームメイトとは今もSNSを通じた親交が続いている。

帰国後、FC琉球に加入し、年々出場機会を増やした。4年目には全試合出場を果たし、16点を取ってJ3の日本人得点王になった。2019年にFC岐阜に加入したが、最初の年は大怪我をして治療に専念する年となった。昨シーズンは30試合に出場し5得点、9月には娘が誕生したので、今シーズンは気合も十分で練習に励んでいる。これまでの出場回数は5試合だが、腐らず『敵は己にあり』の信念で頑張っている。

岐阜は温かいファン・サポーターの人たちが多いのに、今はコロナで触れ合いが出来なくて残念だが、牛肉、豚肉、ウナギなど美味しいものが多く、下呂温泉などは再び訪れたいと思っている。

夢は“J1”で活躍する選手になることで、この岐阜でJ3優勝J2昇格の次に、J1昇格が出来るように頑張っていきたいと話す、彼の今シーズンの活躍に期待したい。



写真: ©Kaz Photography/FC Gifu

背番号 28 三ツ田 啓希 選手  
DF 23歳

埼玉県狭山市で両親、兄、祖父母の6人家族で育った。中央大学では3年先輩にFC岐阜でプレーし、現在はヴィッセル神戸で大活躍している古橋選手、2年先輩に三島選手がいる。大学3年生と4年生の時に松本山雅FCの特別指定選手として練習参加や試合に出場し、2020年に松本山雅FCとプロ契約した後、今シーズンからFC岐阜に加入了。

ニックネームは“ミツ”として親しまれ、長身を生かしたディフェンス、セットプレーやコーナーキックからのヘディングシュートを得意技として、前半戦全試合に出場し3得点を挙げている。

夢は日本代表選手であり、今のFC岐阜は監督やコーチ、選手達ともうまくコミュニケーションが取れているし、アドバイスも豊富にもらえる環境にあって充実した毎日を過いでいる。

岐阜に来て街が思っていたより栄えていることに驚いたし、道路が全般に広く、街中に左折専用レンジが多くて戸惑った。水道水はカルキ臭が全くなくて美味しいし、ハムや牛肉も美味しい。その他にどこで煮など何でもみそ味に最初は戸惑ったが、今は癖になるほど気に入っている。

“目標に向けてまっしぐらに努力する”が彼の生き方であり、マイペースでもあるが、仲間を大事にする選手で、仲間とともにひたむきに頑張る彼の応援をよろしくお願いします。



写真: ©Kaz Photography/FC Gifu

背番号 41 吉濱 遼平 選手  
MF 28歳

神奈川県川崎市で両親と姉の4人家族で育った。小学生の時に通っていた川崎フロンターレのスクールで当時コーチであったチョウ・キジェ氏に出会った。彼とは松蔭大学1年生の時、彼がヘッドコーチをしていた湘南ベルマーレとの練習試合で再会し、この試合で得点を取ったのが縁で、彼が監督になった2年生の時には特別指定選手になり、3年生からはプロ契約になった。彼との出会いがなければサッカー選手になっていなかっただと思うし、人によっては厳しい人と言うが、選手が試合に出れなくても成長できるよう指導ができる監督で、自分にとっては感謝の念しかないと話す。

その後、福島、群馬、町田、山口でプロ生活を送ってきたが、サッカー選手は違った場所をホームグラウンドに各地で仕事が出来て、様々な人との出会いがある素晴らしい仕事だと思っている。

FC岐阜では素晴らしい監督、スタッフ、選手のもと、練習や実戦で教わることが多く充実した毎日を過ごしている。ファン・サポーターにはいつも温かく接してもらい感謝している。特に対戦時に最下位だったFC今治に敗れた際、負けてムカついているはずなのに力強い激励の拍手をいただいたことは今も印象に残っている。

特技はそろばん(初段)とフラッシュ暗算(4段)。まだまだ様々な可能性を秘めた28歳です。

お問い合わせ (株)岐阜フットボールクラブ Tel.058-231-6811

FC岐阜

検索